

20 地域ゆかりの文化の保存と継承			
主管課名	教育部 郷土博物館		
主管課長名	早野 賢二	電話番号	042-481-7656
関係課名 (組織順)	総務課, 環境政策課, 緑と公園課, 都市計画課, 指導室, 社会教育課, 公民館, 図書館		
目的	対象	市民, 文化遺産	
	意図	文化遺産や伝統を次世代に伝え, 郷土への愛着をはぐくむ, 文化遺産を保存し, 学習素材やまちづくりに活用する	
施策の方向	地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより, 次の世代に継承し, ふるさと調布に対する愛着を育みます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和3年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(20-1 史跡・文化財の保存及び活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡下布田遺跡に関するパネル展やオンライン講演会などの展示・普及活動を行うとともに, 下布田遺跡保存活用整備検討委員会準備会の開催, 史跡の測量調査, 基本設計等委託事業者選定プロポーザルなど, 次年度以降の整備基本設計の策定を見据えた取組を推進した。 新たに深大寺所蔵の「徳川家康寄進状・徳川将軍家領地朱印状」を市指定有形文化財に指定し, 文化財の保存・活用の取組を推進した。 	<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校連携の取組として, 郷土博物館では, 市内小学3年生を対象とした郷土学習展館外授業(学芸員による出前授業)を17校, 24回(うち, オンラインを活用したリモート授業は4回)実施した。また, 遺跡の発掘現場での出張授業, 深大寺水車館からのリモートによる調べ学習に対応した。 郷土博物館及び武者小路実篤記念館では, コロナ禍に伴い学びを止めないよう, ホームページ上に学習教材を掲載するとともに, 新たに調布市に赴任した小・中学校教員を対象とした初任者研修や課題別研修の受け入れを行った。 <p>■連携テーマ2「にぎわいとるおいのあるまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 調布市郷土まつりばやし保存会との共催による「調布市郷土芸能祭ばやし保存大会」は, 新型コロナウイルスの影響を踏まえ, 中止した。 文化庁・東京都・深大寺との連携による国庫補助事業「深大寺近代文書等史料調査」については, 令和元年度から3年間の調査期間の最終年次として目録を発行した。 東京都埋蔵文化財センターが実施する染地遺跡の発掘調査で発見された出土品展示見学会に協力した。
<p>(20-2 地域ゆかりの文化を生かした事業の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土博物館では, 常設展示「調布の歴史」に加え, 夏季・秋季の企画展, 郷土学習展を開催するとともに, 新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら, 講演会・講座を中心とした普及事業を実施した。 武者小路実篤記念館では, 令和2年度から3年度に延期となった春の特別展を開催し, 実篤が文学者として世に出た同人雑誌『白樺』の創刊110周年を記念して, その文学活動の業績を顕彰した。秋の特別展では, 実篤の文学作品を原作として制作された映画を中心に, 「映画のまち調布」と関連付けて開催した。 東部公民館では, 郷土博物館と共催で「養蚕と農家の暮らし」の講座を開催した。北部公民館では, 郷土博物館所有の昔の農機具や生活道具と季節の野菜や植物等, かつての農村の風景や暮らしを思わせるコラボレーション展示を共同で開催した。 これらの取組を通じて, 郷土の歴史や良質な文化に触れる機会を創出し, 豊かな心を育み, 郷土への愛着を育む機会を確保した。 	<p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 古刹深大寺の文化財(国宝, 国指定重要文化財, 都指定重要文化財, 市指定文化財など文化財の宝庫) 国指定史跡: 深大寺城跡(都内中世城郭4例中のうちの1つ), 下布田遺跡(都心に近い縄文の森) 市内65箇所の埋蔵文化財包蔵地(旧石器から江戸時代まで連続と続く埋蔵文化財) 遺跡を育んだ恵まれた地形(国分寺崖線, 府中崖線, 野川, 多摩川, 仙川, 入間川), 用水や水車の歴史 甲州街道と布田五宿, 宿場を中心に江戸時代末期から受け継がれた伝統芸能「祭ばやし」 京王線(沿線の土地開発, 住宅地造成や観光開発の歴史) 新選組局長近藤勇生家, 調布飛行場周辺などの戦争遺跡, 映画のまち など

①横断的連携による施策の推進

- ・郷土博物館では、世田谷区立郷土資料館と連携した企画展、立川市文化財保護審議会委員登壇による調布史談会との共催による講演会、調布市郷土博物館学芸員が講師となり多様な主体と連携した講演会を実施した。
- ・武者小路実篤記念館では、夏休み企画展において郷土博物館とのコラボ展示「実篤が暮らしたころの仙川にタイムスリップ！」を実施したほか、秋の特別展「武者小路実篤と映画」において図書館と連携し、図書館所蔵の映画関係資料を展示し、両館の映画資料の情報交換を実施した。

■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」

- ・図書館では、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2022」で、「出張！映画資料室『さあ、映画を見に行こう～調布の映画館の今昔～』」の展示を行った。分館では上映作品の関連作品を集めてコラボ展示を行った。トークイベント「映画人が語る 旧日活・大映村の日々」は、映像シアター定員の半数の人数とし、オンライン配信も併せて実施した。
- ・武者小路実篤記念館では、秋の特別展「実篤と映画」関連行事として、武者小路実篤の小説「愛と死」を原作とした日活映画「世界を賭ける恋」の上映会を行った。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

- ・郷土博物館では、企画展「調布にオリンピックがやって来た！～1964年あの頃～」のほか、1964年の聖火ランナーをゲストに迎えた関連イベントを開催した。また、企画展に合わせて、展示パンフレットのほか、冊子「1964年東京オリンピックと調布市について知ろう」（第2版）を発行した。
- ・武者小路実篤記念館では、夏休み企画展にて、実篤とオリンピックをテーマとしたコーナーを設けた。

②調布のまちの魅力発信

- ・武者小路実篤記念館では日本で唯一の実篤研究の情報発信基地としての事業を実施した。
- ・文学、美術、演劇、新しき村など、武者小路実篤の多面的な魅力
- ・郷土博物館及び武者小路実篤記念館における独自アカウントによるツイッターを活用した情報発信を行った。
- ・実篤記念館が持つデジタルデータを教材として活用（ホームページに「学習サポート」コーナーを新設）した。

<令和3年度における施策の成果についての総括>

- ・史跡下布田遺跡整備事業においては、リモート講演会、パネル展示など史跡下布田遺跡の周知啓発する取組を重ねながら整備事業を推進した。また、3箇年に及ぶ深大寺近代文書等史料調査の最終年次として目録を刊行するとともに、深大寺所蔵の「徳川家康寄進状・徳川将軍家領地朱印状」を市指定文化財に登録し、文化財の保存・活用の取組を推進した。また、郷土学習展館外授業では、リモート授業の実施など小学校の要望に柔軟に対応しながらコロナ禍を乗り越え、郷土の歴史を学び、愛着を育む機会を提供した。また、実篤記念館では、継続的な展示事業や、様々な年代に向けた普及事業の実施を通じて、武者小路実篤に対する市民の理解の向上、記念館の周知を図ることができた。
- ・東京2020大会の開催年として、郷土博物館では、企画展「調布にオリンピックがやって来た！～1964年あの頃」のほか、当時の調布市聖火ランナーをゲストに迎えたイベントを実施した。また、図書館及び実篤記念館では、「映画のまち調布」の特色を生かした資料展示を開催するなど、地域の魅力、歴史、文化を活かす事業を精力的に展開した。

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値			目標値	達成状況 [※]
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
1 文化遺産の数(国・都・市指定等文化財)	74 (H29)	件	76	77	78	79件	○
2 郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数(実篤公園利用者含む) (基準値は、平成25～29年度の平均値)	5万 1,292	人	4万 6,033	3万 3,273	3万 4,300	5万 5,000	○
【特記事項】 新型コロナウイルスの影響に伴う郷土博物館・実篤記念館の臨時休館：R2.3.28～3.31, R2.4.1～5.31, R3.4.27～5.11							

※R3年度の達成状況は、以下の区分により記号を記入

- ◎：目標値を達成
- ：前年度より向上した
- ▼：前年度より低下した
- ⇒：前年度と同じ
- ：数値未把握（調査未実施など）

◆まちづくり指標の目標達成見込み（令和4年度見込みを含めた現基本計画期間における達成度）

- 達成見込みを次の区分により記号を記入
 - ◎：「目標値達成に向け順調に推移」
 - ：「目標値達成は現状難しいが、前年度より向上する見込み」
 - △：「目標値達成は現状難しく、前年度と同等又は悪化する見込み」

まちづくり指標	達成見込み	要因・課題 (目標達成・未達成の要因・次期基本計画に向けた課題等)
1 文化遺産の数（国・都・市指定等文化財） (目標値：79件 現状値：78件)	◎	令和4年度中に指定解除1件、登録・指定3件を予定している。
2 郷土博物館・実篤記念館の合計入館者数（実篤公園利用者含む） (目標値：5万5,000人 現状値：3万4,300人)	○	今後の新型コロナウイルスの影響は不透明だが、令和4年度は、5月連休中の通常開館実施により、入館者数は増加傾向にある。更なる成果向上に向けては、資料の収集、保存、調査・研究を基盤とした魅力ある事業展開と適切な周知が必要である。

2 令和3年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和3年度に実施した取組に対する評価

※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合評価

総合評価	A	S：「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 史跡下布田遺跡の普及啓発事業を行うとともに、基本設計等委託事業者選定プロポーザルに着手し、整備事業を前進させることができた。 郷土博物館及び実篤記念館では、各種資料の収集、保存、調査・研究、展示・普及のほか、学校教育連携事業を実施することができた。また、多様な主体との連携を一層推進することができた。 郷土博物館、図書館、公民館及び実篤記念館では、それぞれの施設特性を活かしながら、改めて調布市の魅力に気づく機会・ふるさと調布への愛着を育む機会を創出することができた。 	

◆現基本計画期間（令和4年度見込みを含む）における施策の取組状況

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

計画どおり・計画より進んだ取組等 (現基本計画で予定した成果が十分得られる)	今後の取組の方向 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載
①国史跡下布田遺跡の整備・活用 ア 史跡の保存管理と周知 イ 史跡整備基本計画 ※基本設計・実施設計は遅れあり ②郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進 ア 「子どもはくぶつかん」の実施 イ 学習機会についての情報発信 ウ 学校教育連携事業の実施 ③武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開 ア 展示活動の実施 イ 博学連携推進プログラムの実施 ウ 収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用 エ 情報提供システムの運営	①国史跡下布田遺跡の整備・活用 ア 史跡の保存管理と普及啓発 イ 史跡整備実施設計・工事 ②郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進 ア 展示・普及活動の実施と50周年記念事業（2024年） イ 学習機会についての情報発信 ウ 学校教育連携事業の実施 エ 収蔵資料の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用 オ 収蔵資料管理システムの運営（データ整理推進と活用） ③武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開 ア 展示活動の実施と40周年記念事業（2025年） イ 博学連携推進プログラムの充実 ウ 収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用 エ 情報提供システムのリニューアルと運営 ※情報提供システムは、収蔵品データベース、情報閲覧システム、映像視聴システム、ホームページの総称
計画より遅れた取組等 (現基本計画で予定した成果が得られない)	遅れの理由や次期基本計画に向けた対応課題等 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載
①国登録有形文化財真木家住宅と隣接する公園との一体的な有効活用に関する検討	①国登録有形文化財真木家住宅と隣接する公園との一体的な有効活用に関する検討 ア 建物検査の実施 イ 保存・活用計画、整備基本計画の策定など

◆現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）における施策の成果についての総括

- 郷土博物館は、昭和30年代の都市化の進展に伴い、従来の生活様式が失われていくことを憂慮する多くの市民の熱意に支えられ、昭和49年11月に開館した。先人たちの足跡を物語る考古資料、歴史資料、民俗資料、美術資料などは、現在約1万8000点あり、現基本計画期間においては、博物館の基本的な役割として、郷土の歴史に関する資料の収集、保存、調査・研究、展示・普及の取組を継続した。
- また、文化財保護審議会、社会教育施設、歴史を学ぶ市民など、様々なつながりを基盤とした調査・研究を通じて、郷土の歴史や文化遺産に新たな価値・視点を見出すとともに、その成果を普及啓発事業や学校連携事業等に活かすことで、市民の地域への愛着を深め、地域文化の醸成を図った。とりわけ、郷土学習展は、市内小学校3年生にとって郷土の歴史を学び、「本物」に触れる絶好の機会であると捉え、コロナ禍においては学芸員による館外授業やリモート授業を積極的に展開した。
- さらに、郷土博物館、図書館、実篤記念館では、各施設の機能・役割を活かしながら、「東京2020大会」の機運醸成や、「映画のまち調布」の特色を生かした事業を展開し、日常生活の拠点である地域に目を向け、その魅力に改めて気づくことができる機会を創出した。
- 武者小路実篤記念館では、「新しき村100年」「白樺」創刊110年をはじめとした節目をとらえた事業を実施し、市の内外に実篤及び実篤記念館の活動を発信できた。また、博学連携プログラムの実施では、ホームページで「学習サポート」を新設し、ツイッター独自アカウントで「#おうち時間で学ぼう」による発信をしたほか、出張授業や展示を通して学校現場との連携を図った。
- 武者小路実篤記念館の情報提供システムでは、機器の一部入替やデータの移行を行い安定的な維持運用を図る中で、時代のニーズをとらえた次期システムのリニューアルの検討を進めた。

評価	A	【評価区分】
		現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）に対する進捗状況について、S～Dの5段階で評価 S：「計画以上に進捗した。予定以上の取組成果が得られた。」 A：「計画どおりに進捗した。予定した取組成果が得られた。」 B：「概ね計画どおりに進捗した。一定の取組成果が得られた。」 C：「進捗にやや遅れがみられた。あまり取組成果が得られなかった。」 D：「進捗に大きな遅れがみられた。ほとんど取組成果が得られなかった。」

3 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

◆施策を取り巻く状況【A】（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※次期基本計画における重要な視点となる「デジタルトランスフォーメーション(DX)・スマートシティ」、「カーボンニュートラル」、「産学官連携」のほか、施策横断的なテーマである「共生社会の充実(パラハート)」、「安全・安心(防災・減災・防犯・感染症対策)」、「ソフト・ハードが一体となったまちづくり(中心市街地整備、地域別まちづくり、都市計画道路整備)」に関する状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流等	◆文化庁の補助制度の新設 ①令和4年度に新設された博物館機能強化推進事業の枠組みの中で、地域における様々な課題(地域のまちづくりや産業活性化、社会包摂、人口減少・過疎化・高齢化、地球温暖化やSDGsなど)に対応する事業や、博物館の組織連携・ネットワークの形成を通じた課題解決への取組への支援事業に対する補助制度「Innovate MUSEUM事業」が創設された。	◆文化庁の補助制度の新設 ①今後の郷土博物館機能の在り方や方向を整理する中で、必要に応じて、当該補助制度の活用を検討し、歳入確保に努める。
東京都や近隣自治体の動向等		
その他		

◆施策を取り巻く状況【B】(国, 東京都・近隣自治体の動向など)を踏まえた取組の方向

※上記の施策を取り巻く状況【A】の項目以外で, 法改正・制度改正などの状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	<p>◆文化財保護法の改正 (H31.4.1 施行)</p> <p>①市町村は, 都道府県が策定する文化財の保存・活用に関する総合的な施策の大綱を立案し, 「文化財保存活用地域計画」を作成し, 国の認定を申請できるようになった。計画に基づく, 文化財の保存・活用に関する継続性・一貫性ある取組や地域社会総がかりによる取組が期待されている。</p> <p>◆博物館法の改正</p> <p>②博物館の事業に「博物館資料のデジタルアーカイブ化(電磁的記録の作成と公開)」、「学芸員等の人材の養成及び研修を行うこと」が追加された。市民の「知る権利」の保障やデジタル化された資料の積極的活用と共有, インターネットを通じた教育・コミュニケーション活動などの取組が期待されている。</p> <p>③地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域活力の向上に取り組むことを努力義務とした。学習支援機関として, 交流, 市民参画・連携などの取組が期待されている。</p> <p>④現状では, 調布市郷土博物館は, 博物館として登録されているが, 今後の登録には申請が必要となる。登録の申請に当たっては, 博物館資料の収集, 保管及び展示並びに博物館資料に関する調査研究を行う体制, 学芸員その他の職員の配置並びに施設及び設備が東京都教育委員会の定める基準に適合するとともに, 1年を通じて150日以上開館する必要がある。</p> <p>※既に登録されている博物館は施行から5年間は登録博物館とみなす。</p>	<p>◆文化財保護法の改正 (H31.4.1 施行)</p> <p>①現在, 都の大綱や都内自治体における文化財保存活用地域計画の作成は確認できていないため, 次期計画期間中は, 東京都及び都内市区町村の動向を注視していく。</p> <p>◆博物館法の改正</p> <p>②郷土博物館では, 収蔵資料の調査・研究, データベース登録, 公開を推進する。実篤記念館では, 所蔵データのICT教育への活用, 解説のデジタル化等を推進する。また, 情報提供システムのリニューアルを行い, デジタル情報の活用と, アーカイブの充実, 新たな時代のニーズに合わせた事業展開を進めていく。</p> <p>③郷土博物館では, 引き続き, 多様な主体との連携を図りながら, 市内の回遊性向上が図られるような様々な取組を進める。実篤記念館では, 地元民間事業者, 大学との連携を図り, 新たな魅力を発信していく。</p> <p>④郷土博物館及び実篤記念館では, 東京都教育委員会の定める基準に適合できるよう準備していく。</p> <p>※実篤記念館は, 現在, 登録博物館ではないが, 登録することにより, 全国的な博物館として信頼を確保し, 事業全般にわたり充実を図っていく。</p>
自治体の動向等(東京都・近隣)	<p>⑤令和元年の台風19号により, 川崎市市民ミュージアムの収蔵資料が甚大な被害を受けた。改めて自然災害への備えについて検討するきっかけとなった。</p> <p>⑥縄文の遺跡を持つ調布市, 東村山市, 国分寺市, 国立市, 西東京市による連携事業を推進していく(令和4年度から令和8年度までの多摩・島しょ広域連携活動助成金事業)</p>	<p>⑤郷土博物館及び実篤記念館では, 立地する地域特有の問題(浸水想定区域, 土砂災害警戒区域等)に取り組み, 防災・減災を図るとともに, 適切な保存環境及び施設・設備を確保し, 将来にわたり貴重な作品・資料を後世に残し, 活用していく。</p> <p>⑥貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市で連携し, 縄文の魅力・歴史的意義をPRするとともに, 地域振興及び広域観光の推進に努める。</p>
その他	<p>◆施策に関する重要な視点</p> <p>⑦開館から45年以上経過する中で, 今後の郷土博物館機能の在り方や方向の整理に取り組む必要がある。</p> <p>⑧実篤公園・旧実篤邸の整備, 保存, 活用と, 実篤記念館とのより一体的な事業展開・管理を推進する必要がある。また, 時代に即応した施設・設備の整備計画等について検討を進める必要がある。</p>	<p>◆施策に関する重要な視点</p> <p>⑦今後の郷土博物館機能の在り方や方向の整理に取り組む。また, 庁内横断的な連携の下, 公共施設マネジメントの観点も含め, 施設的な課題についても多角的に検討する。</p> <p>⑧実篤公園の整備, 旧実篤邸の保存・活用, 実篤記念館とのより一体的な事業展開・管理を推進する。博物館施設に求められる機能の高度化に伴い, 施設・設備計画の策定, 基本設計等を計画的に進めていく。</p>

施策20「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

計画コード	63	重点P		-
事務事業	国史跡下布田遺跡の整備・活用			総合戦略 ●
所管部署	教育部 郷土博物館 文化財係			
事業概要	<p>下布田遺跡は、縄文時代晩期の複雑な社会構造を究明するうえで重要な遺跡として、昭和62年に国史跡に指定された。</p> <p>3度の追加指定を経て、現在の指定面積は1万2772.14㎡となっている。</p> <p>国庫補助による史跡公有化を継続的に進めており、令和3年度末の公有化面積は1万1923.14㎡(公有化率93.35%)となっている。</p> <p>平成30年度には、整備の基本理念となる保存活用計画を策定し、令和2年度には、具体的方針を定めた整備基本計画を策定した。</p> <p>保存活用計画・整備基本計画に基づき、貴重な史跡を保全するとともに、市民のための史跡公園開園に向けて整備事業を推進する。</p>			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容(事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	<ul style="list-style-type: none"> ○測量委託の実施 ○学校連携事業の実施 ○史跡内学術調査の実施 ○地権者交渉(用地取得) ○用地取得 ○史跡の保存管理と周知 	<ul style="list-style-type: none"> ○保存・整備に関する検討 ○史跡の保存管理と周知 ○史跡整備基本設計 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本設計に向けた測量の実施(新規) ○市民協働事業の実施(市民ワークショップの定期開催(拡充)、協働イベント縄文の杜プロジェクト開催(継続)) ○学校連携事業の実施(布田小総合学習の取組み(継続)、歴史学習のプログラム化検討(新規)) ○国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター発行(新規) 	<ul style="list-style-type: none"> ○測量委託実施 ○保存活用整備検討委員会の準備会の開催(1回) ○学校連携事業の実施(コロナ拡大により授業1回実施。学校では取組継続) ○史跡内学術調査の実施 ○史跡の保存管理と周知(オンライン文化財講演会開催、「調布の文化財」刊行)
事業費(千円)	10,365	4,926	4,849	
債務負担行為等による用地取得費	0	0	0	
令和3年度取組実績	<input type="checkbox"/> 計画どおり <input checked="" type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input checked="" type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ○
説明	<p>極めて厳しい財政状況の中で、基本設計が1箇年先送りとなった。コロナ影響により、市民協働事業(ワークショップ等)の開催が見送りとなり、円滑な計画推進に影響した。</p> <p>史跡公園の基本設計の前段となる測量委託を実施した。</p> <p>整備検討委員会準備会を開催し、ガイダンス施設の展示計画を検討した。</p> <p>学校連携事業として、下布田遺跡近隣の小学校と史跡への理解・愛着を深める総合学習授業を実施したほか、市内の遺跡に関する出前授業を市内中学校向けに実施し、遺跡への理解を深めた。</p> <p>史跡の詳細確認調査により、史跡西側での遺構・遺物の分布状況や基本土層を確認し、集落範囲の広がりや旧地形の状況を明らかにするなど重要な成果を得た。</p> <p>普及活動として、オンライン文化財講演会を実施し、令和2年度の発掘調査成果である縄文時代の植生・自然環境の講演を実施したほか、「国史跡下布田遺跡史跡整備ニュースレター」(創刊号、第2号)を発行し、広く周知を図った。</p>			
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	<p>基本設計を1箇年先送りしたため、より効率的な事業展開を図り、令和9年度の史跡公園開園に向けて史跡整備事業を推進する。</p> <p>史跡整備市民ワークショップを継続的に開催し、史跡への理解・愛着を育み、市民協働事業に取り組む。</p> <p>史跡における墓域等確認の学術調査を実施し、遺跡の性格の解明に寄与する。</p> <p>史跡下布田遺跡を活用した体験学習会・見学会等の各種普及啓発事業を市民協働事業として継続して実施する。</p> <p>学校連携授業としては、布田小学校など近隣の学校において、下布田遺跡を教材とした総合学習を実施することで、地元の史跡への興味関心を醸成する。</p> <p>史跡の公有地化を進めるため、建物移転補償を伴う地権者との交渉を継続する。</p> <p>史跡の適切な維持管理を行う。</p>			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策20「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

計画コード	64	重点P	-	
事務事業	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進			総合戦略 ●
所管部署	教育部 郷土博物館 事業管理係			
事業概要	郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究や資料の保存を行うとともに、身近な地域の歴史について学ぶことのできる展示・普及事業を推進する。 常設展示「調布の歴史」に加えて、企画展・移動展等の展示事業、講座・講演会・体験学習会・見学会等の普及事業を実施する。 子どもたちが気軽に参加できる体験型の「子どもはくぶつかん」事業等の学習講座を実施する。 郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究の成果を公表するパンフレット等を発行する。また、市ホームページ・SNS等により、学習機会についての情報を発信する。 学校教育と連携した事業を実施する。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○展示・普及事業の推進 ○「子どもはくぶつかん」の推進 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の推進	○展示・普及事業の実施 ○「子どもはくぶつかん」の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施	○展示・普及事業の実施・オリンピック・パラリンピック関連事業の実施 ○「子どもはくぶつかん」の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施	○展示・普及事業の実施・オリンピック・パラリンピック関連事業の実施 ○学習機会についての情報発信 ○学校教育連携事業の実施
事業費 (千円)		3,199	2,569	2,307
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ◎
説明	展示事業・普及事業を実施することにより、郷土の歴史・文化遺産の活用に取り組んだ。 展示事業では、常設展示、企画展(2回)、郷土学習展(2回)、ギャラリー展(7回)、パネル展(2回)、公民館及び武者小路実篤記念館での移動展(3回)、市立第三中学校での「歴史の部屋」を開催した。普及事業では、世田谷区立郷土資料館とのコラボ展示解説、地域文化講演会、古文書講座、出前講座等を実施した。オリパラ関連事業として、東京2020参画プログラムの認証を得て、企画展「調布にオリンピックがやって来た!~1964年あの頃~」のほか、1964年の聖火ランナーをゲストに迎えた関連イベントを開催した。 学校連携事業として、市内小学3年生を対象とした郷土学習展館外授業(学芸員による出前授業)を20回及びオンラインを活用したりリモート授業を4回実施した。また、新任教員を対象とした初任者研修・課題別研修の受入れを行った。 「郷土博物館だより」(2200部)、企画展の展示パンフレット等を発行したほか、郷土博物館Twitterを運用し、地域の歴史・文化遺産について情報発信を行った。			
				
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	郷土博物館では、考古・歴史・民俗・美術など地域ゆかりの資料を収集して、展示・普及事業等を通じて調布の歴史・文化財等に親しむ機会を提供する。令和4年度は、特別収蔵庫を中心とした収蔵資料の整理・調査の過程で収蔵品展を開催する。また、令和6年度の開館50周年に向けた企画・事業等を検討していく。 ◆普及事業では、コロナ禍を踏まえ、オンラインの活用により、「子どもはくぶつかん」等の体験型事業の実施方法・内容等について改善を図りながら、子どもたちに地域の歴史や伝統文化に触れる機会を提供する。 ◆学校教育連携事業では、学校との連携と相互交流を図り、事業の充実と質の向上を目指していく。郷土学習展やコロナ禍を踏まえた出前講座や令和3年度に実施したオンラインを活用したりリモート授業等の学習支援の活用により、市内の小学校に対して地域教育の場を提供する。 ◆市HPや郷土博物館公式Twitter等のSNSを活用した即時性のある情報発信を行うとともに、自宅から学べるコンテンツの作成・公開に取り組む。			

※新型コロナウイルスの影響に関する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策20「地域ゆかりの文化の保存と継承」に関連する基本計画事業

計画コード	65	重点P		-
事務事業	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開			総合戦略 ●
所管部署	教育部 郷土博物館 事業管理係			
事業概要	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開により、実篤研究の情報収集・発信機能の充実を図る。地域教育・芸術・文化の向上へ貢献するとともに、全国へ特色ある事業の魅力発信する。博学連携事業の実施を通して、子どもたちの豊かな心を育み、郷土に愛着と誇りを感じることができるよう積極的な働きかけを行う。また、地域ゆかりの貴重な文化的遺産を後世に伝えるために、収蔵品の整理、保存、修復等を行う。加えて、作品・資料の収蔵情報をデータベースに登録し、広く情報を提供するとともに、展示や普及事業等に活用する。併せて、情報閲覧・映像提供システム及びホームページ等により作品や資料など、実篤に係る情報をより分かりやすく提供、広報活動の充実を図る。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
○展示活動の実施	○展示活動の実施	○展示活動の実施	○展示活動の実施 (特別展2回、企画展5回)	○展示活動の実施 (特別展2回、企画展5回)
○教育・普及事業の実施	○教育・普及事業の実施	○教育・普及事業の実施	○教育・普及事業の実施	○教育・普及事業の実施 (夏休み企画1回)
○武者小路実篤を核とした特色ある事業を充実に、地域教育・文化向上へ貢献し、全国へ特色ある事業の魅力発信				○教育・普及事業の実施 (延べ54件)
○収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用	○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用	○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用	○収蔵品の整理・保存、修復、複製の制作、公開・活用	○収蔵品の整理・保存・修復、複製の制作、公開・活用
○情報提供システムの充実	○情報提供システムの運営	○情報提供システムの運営	○情報提供システムの運営	○情報提供システムの運営
事業費 (千円)	16,195	15,686	17,603	
債務負担行為等による用地取得費	0	0	0	0
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ◎
説明	<p>展示事業では、特別展2回と企画展5回を開催した。春の特別展では「白樺」創刊110年を記念した文学活動を紹介し、秋の特別展は「映画のまち調布」と関連付けた「武者小路実篤と映画」を実施し、夏の企画展では、東京2020大会にあわせて、実篤とオリンピックをテーマに実施した。</p> <p>学校との連携事業では、出張授業や美術鑑賞見学、パネル展示を実施した。また、ICTを活用した学校教育との連携を検討するとともに、新たに実篤記念館が持つコンテンツを整備し、調べ学習などの教材として利用できるように、ホームページに「学習サポートページ」を新設した。</p> <p>情報提供システムは基幹機器の一部入替、データ等の移行作業を行い、リニューアルまでの間、安定的な運用ができるように努めた。</p> <p>コロナ禍において、動画配信で講座を開催する等、創意工夫しながら事業を実施したものの、感染拡大防止のための臨時休館（臨時休館日数13日）、コロナ禍の収束が見通せない中、都外からの来館者や団体利用が減少したことなどから、利用者数は5757人（前年度比385人の減）となった。</p>			
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	<p>◆実篤記念館における来館者数の更なる増加を目指し、展示、講座等の企画や、他団体との共催及び記念館のPRに効果的なグッズの作成を計画的に行うことで、実篤研究に基づく情報発信機能を発揮していく。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底したうえで、内容の創意工夫を図りながら実施していく。情報提供システム（収蔵品データベース、情報閲覧システム、映像視聴システム、ホームページ）については、技術の進歩と情報利用の環境変化、時代のニーズを踏まえたリニューアルを図っていく。</p> <p>（一財）武者小路実篤記念館は、市から委託を受け実篤公園の日常管理を行うとともに、市からの指定を受けて記念館の指定管理業務を行っていることから、実篤公園について、指定管理事業と連携してより一体的な活用を検討していく。</p>			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。